

高等学校

高等学校における思考力・判断力・表現力を伸ばす指導法に関する研究 －教師力の向上をめざして－

高校教育課 指導主事 竹谷 澄子 他4名<注>

要 旨

本研究は、県内の県立高等学校教員に対するアンケート調査から思考力・判断力・表現力を伸ばすためにどのような実践が行われているか、またどのような課題を抱えているかを分析した上で、効果的な指導法を提案し、研究協力校において検証授業を実施した結果を考察したものである。

キーワード：高等学校 思考力 判断力 表現力 単元計画

I 主題設定の理由

中央教育審議会答申（平成20年1月）では、①改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂②「生きる力」という理念の共有③基礎的・基本的な知識・技能の習得④思考力・判断力・表現力等の育成⑤確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保⑥学習意欲の向上や学習習慣の確立⑦豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実を提起している。今回の学習指導要領の改訂では基礎的・基本的な知識・技能を学習の基盤とし、その基盤の上に思考力・判断力・表現力等をはぐくむことが重視されている。そこで、平成25年度から学年進行で実施されることに伴い、高等学校における思考力・判断力・表現力を伸ばす指導法を研究することとした。

II 研究目標

本県の県立高校における、思考力・判断力・表現力を伸ばす授業の在り方に関する調査・分析を通して、授業における課題を明らかにし、その分析結果を基に、思考力・判断力・表現力を伸ばす授業について研究し、検証授業を通じて効果的な指導法を考察する。

III 研究の実際とその考察

1 アンケート調査の実施

思考力・判断力・表現力を伸ばす授業についての実践と課題を探るため、アンケート調査を実施した。

(1) 調査について

ア 対象 青森県内普通高校30校、総合学科設置高校3校、専門高校9校に在籍する国語、地歴公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報の各教科主任（計378人）

イ 方法 選択式（一部記述式）〔回収率100%〕

ウ 内容

設問1 生徒同士が話し合いをする場面や、思考・判断・表現する場면을授業の中に設定しているか。

（5＝毎時間設定、4＝しばしば設定、3＝時々設定、2＝たまに設定、1＝設定していない）

また設定している場合、具体的にどのような活動をしているか。

（1）生徒同士が話し合いをする場면을授業の中に設定しているか。【思考・判断・表現】

（2）生徒がじっくりと考える場면을、授業の中に設定しているか。【思考・判断】

（3）話し合ったことやじっくり考えたことを生徒が記述する場면을、授業の中に設定しているか。

【表現】

（4）話し合ったことやじっくり考えたことを生徒が述べる場면을、授業の中に設定しているか。

【表現】

設問2 生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすために現在教科指導で悩んでいることは何か、またその課題を解決するためにどのような取組をしているか。

設問3 教師の授業力向上のために、今まで行ったことがあるもの、効果的だと思われるものは何か。

(2) 考察

ア 設問1について、アンケートを実施した教科の中で、授業の中に話し合いの時間を最も多く設定している（評価4以上、以下同様）のは体育、じっくり考える場面と述べる場面が多いのは国語、記述する場面が多いのは保健と家庭科である。それに対し、いずれも設定の割合が低い教科は地歴公民と理科である。どちらも、評価1（設定していない）、2（たまたま設定している）の占める割合が50%~80%と高く、講義中心の授業が行われていることが推測される。

イ 設問2では、授業の中に「話し合いや思考・判断・表現する場面を設定することは大切だ」と思うが、「進度が遅れるため実施するのが難しい」「考えることや、人前で発表すること、意見を記述することを生徒がいやがる」「生徒の基本的な知識が乏しい」「生徒の学習意欲や向学心が欠如している」ので思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を行うことは難しいという回答が多かった。また課題の解決策としては、「時間がないので授業計画を見直し内容の精選を図る」「一人で考えたり発表したりできないのでグループ学習で生徒同士考えを深めあう」「朝自習や総合的な学習の時間を利用して表現力の育成に努めている」「意欲をもたせるために課題研究を実施している」などの解答が見られた。

ウ 設問3について、授業力向上に効果的だと教員が考えている取組を上位5項目まで下の表に示した。複数回答で答えてもらったが、これを見ると、個人やグループで研究したり、教科間でお互いに授業を見て協議したりすることが授業力向上につながると考えている教員が多いことが分かる。また自由記述では、研修に参加したいが、校務に忙しく全く時間がとれないという回答が多かった。

表1 設問3に対する回答（授業力向上のため効果的だと思う取組）

多数順	項目	割合 (378人中)
1	個人で生徒理解や教材、指導方法について研究する。	55.3%
2	教科担当者間でお互いに授業を見て、協議を行う。	54.8%
3	総合学校教育センター以外（大学など）の校外研修に参加する。	41.0%
4	グループ（教科・学年・委員会など）で生徒理解や教材、指導方法などについて研究する。	40.5%
5	総合学校教育センターの研修に参加する。	38.9%

2 思考力・判断力・表現力を伸ばす指導法の研究

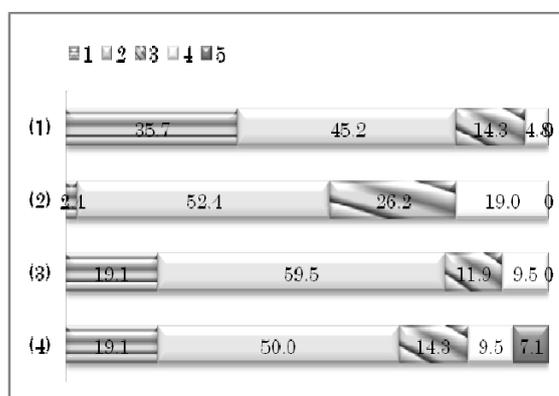
アンケート調査の分析結果から、思考力・判断力・表現力を伸ばす授業が十分に行われているとはいえないことが分かった。この現状を改善するため指導法を研究し、公民、理科、保健体育、芸術、外国語の検証授業を実施した。

(1) 地歴公民

ア アンケート結果から見える課題

事前アンケートの設問1の結果を見ると、地歴公民の授業で、「(1)生徒同士が話し合いをする場面」、「(2)じっくり考える場面」や話し合ったり考えたりしたことを「(3)記述する場面」、「(4)述べる場面」を設定しているかどうかについては、多くの学校において、評価1、2の占める割合が50%~80%であり、アンケートを実施した教科の中で、最も設定されていないのが地歴公民であった。講義中心の授業が行われているものと推察される。講義形式は知識伝達の方法として効率的だが、生徒は受け身の状態であるため、その知識を果たして習得できているかについては疑問である。考えさせたり、表現させたりする場面を設定することは重要だと認識しているが、習得させるべき知識がたくさんあり、時間をとれないということが、地歴公民の教員に共通する悩みであることが

表2 アンケートの結果（地歴公民）



アンケートの自由記述から読み取れる。しかし、現在行われている講義形式の授業では、思考力・判断力・表現力を伸ばすことは難しいのではないかと考える。生徒同士で話し合い、発表するという場面を授業の中に積極的に設定し、生徒が考えたり、説明したりせざるをえない状況をつくることによって、思考力・判断力・表現力が鍛えられるのではないかと考える。

イ 課題解決の方向性

講義中心ではなく、できるだけ生徒が活動できるように、知識伝達の場面と生徒が主体的に活動する場面を、限られた時間の中でバランスよく授業の中に組み込むことが重要である。そのため、生徒の活動が中心となる時間をいつ設定するかよく検討した上で単元計画をたて、知識伝達の場面では習得すべき内容を精選しなくてはならない。

ウ 検証授業での検証事項

- a グループで話し合い、作業する活動を取り入れることが、表現力の育成につながるのか。(※1)
- b グループでまとめる作業は、思考力・判断力を高める活動につながるのか。(※2)

エ 検証授業の対象集団

学校規模：1 学年6 クラスの高等学校／対象学年：普通科1 学年

オ 検証授業の内容（一部） 科目：現代社会 単元：民主政治の基本原則

過程	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
展	(1) 政治とは何か	・説明を聞き、板書をワークシートに記入する。	・説明、板書		8分
	(2) 小さな政府、大きな政府とは何か ① 小さな政府と大きな政府の特徴についてグループで分析作業を行う	<p>グループで分析作業を行う</p> <p>→ 小さな政府、大きな政府の長所短所を付箋に書き出し、各班に配付された紙に貼り付ける。</p> <p>・ 同じ意見が書かれた付箋をまとめる。まとめた意見をワークシートに記入する。</p> <p>発表</p> <p>・ 指名された生徒 → グループでまとめた長所・短所について発表する。</p> <p>・ 他の生徒 → 自分のグループと違う意見が出てきた場合は、ワークシートに書き加える。</p>	<p>・ 小さな政府と大きな政府についてそれぞれ説明する。</p> <p>・ グループで、小さな政府、大きな政府の長所・短所を付箋に書き出し、各班に1枚ずつ配付した紙に貼り付けるよう指示する。</p> <p>・ 同じ意見が書かれた付箋をまとめるよう指示する。まとめたものをワークシートに記入するよう指示する。</p> <p>・ グループでまとめた長所・短所について発表するよう生徒を指名する。自分のグループと違う意見が出てきた場合は、ワークシートに書き加えるよう指示する。</p> <p>・ 他に意見はないか、他グループの生徒を指名する。</p>	<p>・ 小さな政府、大きな政府について、教師の説明を基に、自分の知識や考えをまじえながら分析し、グループでまとめる作業に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 方法：机間指導における観察 具体的な評価規準 ① 自分の意見を説明している。 ② 自分から進んでリーダー的役割を果たしている。 A: ①と②を満たす場合 B: ①を満たす場合</p>	
開	② 小さな政府と大きな政府のどちらを支持するか考える。	<p>各自、意見を記入</p> <p>・ 小さな政府、大きな政府のどちらを支持するか自分の考えをワークシートに記入する。</p> <p>発表</p> <p>・ 指名された生徒 → 小さな政府を支持する → 大きな政府を支持する</p> <p>・ 他の生徒 → 発表を聞き、自分と違う意見をメモする。</p>	<p>・ 小さな政府、大きな政府のどちらを支持するか自分の考えをワークシートに記入するよう指示する。</p> <p>・ 生徒を指名し、自分の考えを発表するよう指示する。</p> <p>・ 様々な意見があるので、正答はないことを示す。</p> <p>・ 自分と違う意見をワークシートにメモするよう指示する。</p> <p>・ 他に意見はないか、他グループの生徒を指名する。</p>	<p>・ 分析をもとに小さな政府、大きな政府のどちらを支持するか自分の考えをワークシートに記述している。</p> <p>【思考・判断・表現】 方法：ワークシートの点検 具体的な評価規準 ① 分析をもとに自分の意見を記述している。 ② グループの分析だけでなく、新たな視点も盛り込んで自分の意見を記述している。 A: ①と②を満たす場合 B: ①を満たす場合</p>	40分

カ 検証授業での生徒の様子

教師の説明や資料を基に自分の知識や考えをまじえながら、小さな政府・大きな政府の長所・短所を付箋に記入し、それを模造紙に貼り付けてグループでまとめるという作業は、公民の授業では初めてだったので最初は戸惑いがあったがすぐに慣れ、意欲的に取り組んでいた。

キ 検証授業の結果

授業終了後、生徒にアンケートを実施したところ、「ふだんの授業より考える時間が多かった」「ワークシートに自分の考えを書くことができた」「グループ活動をまたやってみよう」と答えた生徒はいずれも8割以上であった。「いつもは板書をノートに書くだけだが、今回の授業は『考える』という作業があり、とてもおもしろかった」「自分の考えを書くことは難しいと感じた」「グループになってみんなと意見を交換し合うことがとても楽しかった」「自分の考えだけでなく他人の考えを聞くことによって、より深く理解できたと思う」などの感想をもらうことができた。授業担当者からは、「通常の授業では、生徒が『思考・判断・表現』する内容の授業を実施するのは難しいが、今回のような事例であれば取り入れやすいと思う」という回答を得ることができた。

ク 課題

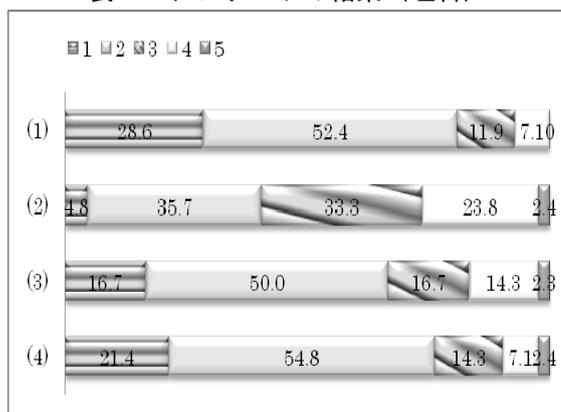
今回の検証授業の結果から、生徒同士で話し合うことやじっくり考えることを、予想以上に生徒は望んでいることが分かった。しかし込み入った内容になると、生徒にとって話したり考えたりすることが難しくなると思われるので、何を考えさせるのか、何について話し合わせるのか、生徒の実態に応じて十分吟味することが必要である。また基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させることと、思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむことを、限られた時間の中で実現していくためには、単元計画をしっかりと立て、教材の精選、効率的な授業展開をこれまで以上に行っていくことが求められる。

(2) 理科

ア アンケートの結果から見える課題

事前アンケートの設問1の結果を見ると、理科の授業中に、「(1)生徒同士が話し合いをする場面」は評価2以下の割合が80%以上あり、話し合いの場面がたまにしか設定されていない結果となった。さらに「(2)じっくり考える場面」では評価3以上の割合が55%を超えてはいるが、評価4以上の割合では25%程度にとどまっていた。一方、「(3)記述する場面」や「(4)述べる場面」では、共に評価2以下の割合が60%以上あり、発表、記述等の表現させる場面の設定が少ないという結果を示した。以上の結果から理科の授業では、生徒個々に考えさせる場面は時々設定しているものそれを発表や記述等で表現させる場面が少ないということが分かった。

表3 アンケートの結果(理科)



イ 課題解決の方向性

事前アンケートでは、理科の思考力・判断力・表現力の育成には、観察・実験の活用が効果的であるとの結果が出ているが、授業時間の確保が難しいという理由から、実験・観察の時間が削られているのが現状である。そこで、授業に実験・観察を効果的に取り入れるとともに、表現させる場面を積極的に設定する必要があると考える。

ウ 検証授業での検証事項

- a 演示実験の結果予想や、実験結果の理由を記述、発表させることが表現力の育成につながるのか。(※1)
- b 個人及びグループでの思考場面が、思考力・判断力を深める場となるのか。(※2)

エ 検証授業の対象集団

学校規模：1学年6クラスの高等学校／対象学年：普通科2学年

オ 検証授業の内容(一部) 科目：地学 単元：大気の組成及び大気圏

過程	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
展開	○大気の組成 【演示実験1】 簡易ガス探知器を利用し、酸素、二酸化炭素の濃度を実際に測定する。	・濃度を予想させ、その理由を答える。 ・実験結果をワークシートに記入する。	演示実験、実習とも実験結果を予想してから行うように指示する。 実験結果をワークシートに記入し、それが生じた原因を考え、発表するように指示する。	○地球を取り巻く大気の成分を、日常生活を通じて想像できたか。 【関心・意欲・態度】 (机間指導、ワークシートの記入状況、発表状況により評価する。)	30分
	○大気圧 【実習】 グループ単位で、ペットボトルに少々お湯を入れ温める。お湯を捨て、蓋を締め、そのペットボトルに冷水をかけてその様子を観察する。	・グループ単位で実験を行い、その結果をワークシートに記入する。 ・実験結果とそれが生じた原因をグループで考え、その理由を発表する。	※2	◎大気によって生じる現象を考え、その現象が生じる原因を説明できたか。 【思考・判断・表現】 (机間指導、ワークシートの記入状況、発表状況により評価する。)	
	【演示実験2】 上方、中央、下方の3箇所穴を開けたペットボトルの水の出方を観察する。	・結果を予想し理由を発表する。 ・結果をワークシートに記入し理由を発表する。	※1		

※今回は時間的な制約を考慮し、演示実験の結果を考察させる材料に使い、生徒たちに思考・判断・表現の場面を設定した授業展開とした。また、事前アンケートには、中学校での学習事項の定着状況が良くないという意見も多くあり、既習事項の内容も意識して取り入れた。

カ 検証授業での生徒の様子

普段、講義中心の授業で実験を行う機会が少なかったためか、中学校で既習している内容の簡単な実験にも興味をもち積極的に取り組む生徒が多かった。また、身近な題材をテーマにした内容であったため、質問に対し意欲的に考えようという姿勢も見られた。しかし発表の場面では、グループ活動での発言はあるものの、全体の場ではそれを適切な言葉で表現できない生徒が見られ、教師の助けを借り自分の考えを伝えるという場面があった。

キ 検証授業の結果

授業後アンケートの結果では、「考える時間が多かった」「書くことができた」「実験を取り入れた方が理解しやすかった」など肯定的な評価が8割以上という結果となった。つまり、実験を行うことで考える場面が設定され、通常より記述する場面が多かったという結果が得られた。さらに、次回の授業が楽しみになったという意見もあり、簡単な実験でもそれを取り入れることで、授業に対する興味・関心を促し、理解力を高める効果も得られる結果となった。また、今回三つの実験を取り入れたが、十分に時間内で終わることができた。

ク 課題

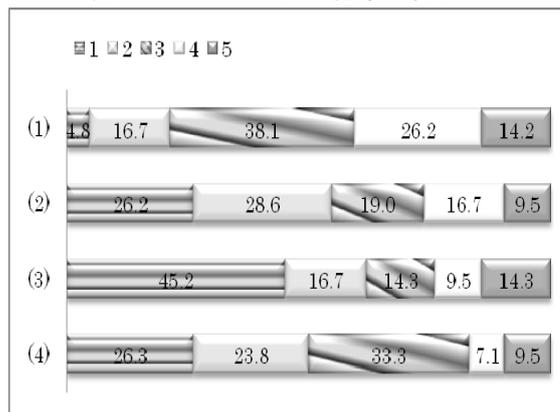
今回の学習指導要領の改訂について、高等学校学習指導要領解説理科編理数編（2009）ではその改善の方向性として、思考力・判断力・表現力をはぐくむために観察・実験、レポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動をその発達段階に応じて充実させることを述べている。今回の検証授業からも観察・実験を取り入れた授業を行うことは、思考力・判断力・表現力の育成に効果があることが予想される。しかし、答えのイメージは頭の中にあるものの、それを全体の場面でうまく表現できない生徒が見られ、表現力を育成することに関しては、更に工夫が必要であると感じられた。常に全員に発表させるには時間的な制約はあるものの、普段から考えを述べさせたり、記述させたりする場面を多く設定し、意識的に表現力を育成することが必要であり、今後は表現できない背景も考察しながら、指導方法に検討を加える必要があると思われる。また、実験については各単元の中にバランスよく取り込めるように授業計画を検討するとともに、効果的な実験方法及びそれを利用した指導方法についても検討していく必要がある。

(3) 保健体育（体育）

ア アンケート結果から見える課題

事前アンケートの設問1の結果から、体育の授業では、「(1)生徒同士が話し合いをする場面」が、技能練習の方法やゲームの戦術について話し合う場面や、授業の反省をする場面に設定されており、多くの学校が授業において頻繁に設定している現状が分かった。反面、「(2)じっくり考える場面」や話し合ったり考えたりしたことを「(3)記述する場面」、「(4)述べる場面」については、多くの学校で、余り頻繁には設定されておらず、これは運動時間の確保に重点を置いているためと考えられる。このことから、運動時間（運動量の確保）と運動を止める時間（思考力・判断力を高める時間）とのバランスのとり方に、多くの学校が苦慮している様子がうかがえる。

表4 アンケートの結果（体育）



イ 課題解決の方向性

運動時間を多く確保しながらも、思考力・判断力を高められるよう、次の二つの方向性を設定することとした。

- a 技能練習やゲームの内容を、技能と同時に思考力・判断力も高められる内容にする。
- b 運動を止める活動については、内容を精選して時間短縮する。

ウ 検証授業での検証事項

- a 1 導入で本時の具体的な活動例（※1）を生徒へ説明することで、自分が活動する姿を具体的にイメージできるようになるのか。

a 2 導入で本時の具体的な評価規準（※2）を生徒へ説明することで、目標を意識した活動になるのか。

b 具体的な評価規準やノートへの記入方法を事前のオリエンテーションで説明することで、「本時の活動内容についての話し合い」や「ノートへの記入」が短い時間で済ませられるようになるのか。

エ 検証授業の対象集団

学校規模：1学年7クラスの高等学校／対象学年：普通科2学年

オ 検証授業の内容（一部） 科目：体育 単元：選択制体育（バドミントン）

過程	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
展開	・本時の活動内容についての話し合い	・本時の目標と活動の流れをもとに各班で話し合い、本時の「技能練習内容」と「ゲームのルール」を決める。	・巡回指導 (話し合いが進まない班への助言等)		5分
	・技能練習	・話し合いで決めた内容で、技能練習を行う。 ・班の仲間や他の班のメンバーと技能について助言し合いながら活動する。 ・練習方法について、班の仲間と話し合い、技能の目標へ到達する内容や、楽しい内容になるよう改善する。 ・教師に助言を求める。	・巡回指導 (技能や練習方法についての助言等)	(2) 課題に応じた練習方法を考え、選んでいる。 【思考・判断】(観察) (具体的な評価規準) ①技能の目標へ到達するよう工夫している。 ②楽しめるよう工夫している。 A：①と②を満たす場合 B：①を満たす場合	20分
	・ゲーム	・話し合いで決めたルールで、ゲームを行う。 ・相手の良いプレーについて、指摘しながらゲームを行う。 ・ゲームについて、班の仲間と話し合い、技能の目標へ到達したり、楽しくなるようルールを改善する。 ・教師に助言を求める。	・巡回指導 (ルールの工夫についての助言等)	(1) 相手のプレーを認めようとしている。 【関心・意欲・態度】(観察) (具体的な評価規準) ①他者の良いプレーについて指摘しようとしている。 ②①の指摘が技術的な内容を含んでいる。 A：①と②を満たす場合 B：①を満たす場合	15分

※検証授業に向けて準備したもの

単元計画表（評価計画含む）、具体的な評価規準（各観点別）、ノート様式

これらを単元のオリエンテーションにおいて配付し、説明をした。特に評価規準については具体例を載せ、生徒が目標をイメージできるよう工夫した。例えば技能の評価規準（サービス）について、Bを「サービスを高く深く打つことができる」とし、Aを「サービスを4隅に打ち分けることができる」としたが、その具体例として、Bを「高い軌道で、バックバウンダリーライン付近へ打つことができる」とし、Aを「ネットすれすれの高さで、ショートサービスラインの左右隅へ打つことができる。あわせて、Bのサービスを左右へ分けて打つことができる」とした。

カ 検証授業での生徒の様子

選択した生徒のほとんどがバドミントンの初心者であったため、技能練習の開始直後は、基本技能習得のための単調な練習に終始していたが、教師が考え方のコツや練習の種類について助言すると、活動内容が評価規準B（※2）に近づいていった。ゲーム中における、相手の良いプレーへの指摘については、すぐに評価規準B（※2）に到達したが、それが技術的な内容を含む評価規準A（※2）までには至らなかった。

キ 検証授業の結果

授業終了後、生徒にアンケートを実施したところ、すべての生徒から「授業内容が理解でき、次回の授業が楽しみになった」との回答があった。また、目標として評価規準を具体的に示したことについても、すべての生徒から「非常に活動しやすく、上達にとっても効果があった」との回答があった。以上のことから自分が活動する姿を具体的にイメージでき、目標を意識した活動が十分なされたと感じている。

ク 課題

高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編 2009）の球技における思考・判断の〈例示〉では、入学年次において「提供された作戦や戦術から選ぶこと」や「話し合いで合意を形成するためのかわり方を見付けること」など、本来の目標である「チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする」を達成するために必要とされる前段階の能力が示されている。今回の検証授業では対象が2学年であったため、前段階の能力が確立されていることを前提に目標を設定した。

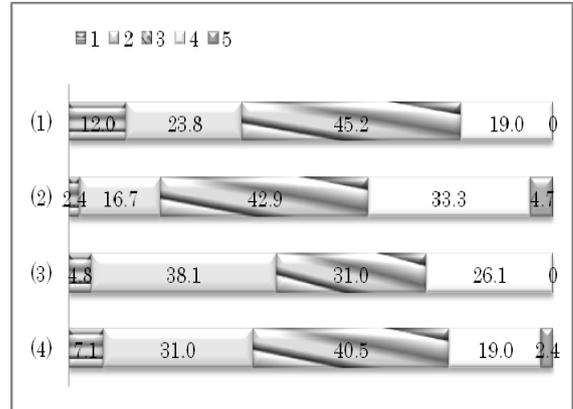
しかし、指導担当者との授業後の話し合いや生徒アンケートから、生徒たちは授業の中で、普段以上に考えて活動してはいたが、主体的に技能練習やゲームを工夫するまでには至っていないことが分かった。このことから、目標設定については、対象生徒の状況（生徒観）に合わせ、場合によっては前段階に戻すなどの工夫が必要であり、そのためにも、単元開始前に対象生徒の状況を的確に把握することが課題であるといえる。

(4) 芸術（音楽）

ア アンケート結果から見える課題

事前アンケートの設問1の結果を見ると、芸術の授業で「(1)話し合いをする場面」「(2)じっくり考える場面」「(3)記述する場面」「(4)述べる場面」を設定しているかどうかについては、評価4、5の占める割合が約20%~40%である。他教科と比べると、授業における生徒の活動が多いことが読み取れる。ここでは音楽を取り上げるが、音楽では、生徒が自ら思考・判断し学習を深めていく活動の例として、「アンサンブル活動の中で役割を決める場面」、「表現方法を深めるために話し合う場面」及び「鑑賞活動においてどのように感じたかなどの考えを発表する場面」がある。しかし、限られた授業時間の中で、じっくりと話し合う場面や意見を共有する場面を設定することが難しいという記述が多かった。また、人前で自分の考えや思いを、感想の発表や演奏などの形で表現することを苦手としている生徒が多いことも、課題として浮き彫りになった。

表5 アンケートの結果（芸術）



イ 課題解決の方向性

思考・判断・表現の学習活動を深めるためには、五感を使って感じ取り、創意工夫しながら表現するという創作活動が重要である。創作活動は時間を要すること、生徒にレディネスがなければ進めることができない内容などが要因となり、授業で取り上げる時間が少ない。そこで、単元計画を工夫するとともに右記A~Eの視点で題材を取り上げることにより創作活動が充実したものになると考える。

- A 意欲的に取り組めるもの
- B イメージを広げやすいもの
- C 達成感のあるもの
- D 1時間で完成するもの
- E 様々な領域につなげることができるもの

ウ 検証授業での検証項目

- a 音素材の特徴を生かした創作活動が、主体的な音楽表現の創意工夫につながるのか。（※1）
- b 創意工夫を生かした創作活動が、豊かな表現力の育成につながるのか。（※2）

エ 検証授業の対象集団

学校規模：1学年3クラスの高等学校／対象学年：普通科1学年

オ 検証授業の内容 科目：音楽 単元：日本人の心の音

題材：「音の出る絵画」歌川広重作「大はしあたけの夕立」

過程	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
展 開	<p>【イメージを深める言語活動（思考力）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音のイメージを班で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵から何種類の音が聞こえてくるか班で協議する。 ・各班に配った浮世絵に自由に書き込みながら自分たちのイメージを活発に話し合う。 ・イメージに合う楽器を見つけ、音の出し方を各自工夫する。 	 <p>イメージと合う楽器について、助言しながら、工夫して音を創り出すことを指示する。</p> <p style="text-align: center;">※1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音素材の特徴を生かし、イメージを持って創作しようとしている。 【音楽表現の創意工夫】（観察・ワークシート） <p>(具体的な評価規準)</p> <p>① 浮世絵から具体的な音のイメージを感じ取ることができる。</p> <p>② 選択した楽器を使い表現意図を創意工夫している。</p> <p>A : ①と②を満たす場合 B : ①を満たす場合</p>	17分
	<p>【価値観を大切に、創意工夫する活動（判断力）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージに合う音の楽器を決める。 <p><使用した道具></p> <ul style="list-style-type: none"> ・筒 ・空き瓶 ・小豆 ・団扇 ・ボタン ・木 ・米 ・空き缶 ・ビニール袋 ・セロファン ・紙 <p>(素材の異なる数種類)</p>				

過程	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
展 開	【豊かに表現する活動（表現力）】 ・音のアンサンブル（練習） ・音のアンサンブル（発表） 《発表形式》 ① 発表する ② イメージした浮世絵の中の音と創意工夫した点について説明する。	・音の形を確認し、演奏順を決めイメージを確認しながら練習する。 ・プリントに図形楽譜を記入する。 ・班ごとに発表する。 ・聴く側は相互評価シートに各班の演奏に対する感想を記入する。	・音に入るタイミングや音の大きさ、グループ全体の構成について確認することを指示する。 ・班員のイメージを図形にし楽譜として記録することを指示する。 ・発表の形式を指示する。	・創意工夫を生かした音楽表現をすることができる。 【音楽表現の技能】 （観察・相互評価） （具体的な評価規準） ① 音の重なりを意識して表現している。 ② イメージしたことを豊かに表現している。 A：①と②を満たす場合 B：①を満たす場合	18分

カ 検証授業での生徒の様子

生徒が感じ取った絵から浮かび上がる音のイメージは、大橋に当たる雨音、川面に打ち付ける雨音、傘に打ち付ける雨音、風の音、雷の音、橋を足早に渡る下駄の音、荷物を運ぶ音、船を漕ぐ音など多彩であった。身近にあるものや創作楽器を手に取り、自分なりに奏法を工夫してそのイメージを表現していた。静寂から盛り上がりまでの工夫や音の入る瞬間の工夫が生かされ、グループ全体の意図したことが重なり合ったときの音と移り変わりの緊張感、そして消えていく音の空間の美しさが聞き手を感動させていた。

キ 検証授業の結果

授業終了後の生徒アンケートでは、すべての生徒が「考え表現する時間が多かった」という回答であった。内容については「自分たちで考えたことを演奏するのは慣れていなかったため、いい経験になった」「もっと時間をかけて工夫し練習したかった」「自分の意図をもち、考え、工夫することは難しかったが、達成できて嬉しかった」「意欲的に取り組むことができ、次の授業が楽しみになった」など、この題材で思考・判断する場面や表現の場面を経験することが達成感へとつながり、授業へのモチベーションを向上させていることが分かった。

ク 課題

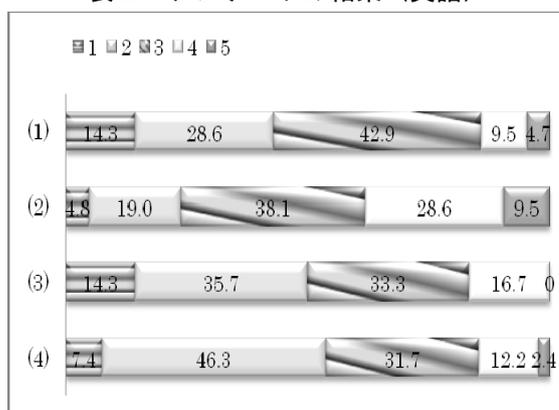
音を作り出すことの大切さや達成感を感じ取った生徒が、次の表現の場では確信をもって取り組むことで、思考力・判断力・表現力が段階的にはぐくまれていくことが重要である。また、身近な「音の素材」で擬音表現することは、日本人の音に対する価値観や、日本人が古くから大切にしてきた感性を呼び覚ますことへとつながり、「音」から「音楽」へと自然につなげることが可能である。歌舞伎の擬音表現である黒御簾の音楽にアプローチしたり、浮世絵から近代印象派の西洋音楽へアプローチし、日本人と諸外国の価値観を学ぶ学習へつなげたりするなど、様々な領域と合わせて学習することは、芸術を広くとらえながら音楽を深く学ぶことのできる効果的な授業へとつながる。このように様々な領域を織り込みながら各学校の生徒の状況に合わせ、単元計画の中で思考力・判断力・表現力に取り組む場面を増やし積み重ねていくことが、今後の課題として挙げられる。

(5) 外国語（英語）

ア アンケート結果から見える課題

アンケートの設問1の結果によれば、英語の授業では(3)「話し合ったことやじっくり考えたことを生徒が記述する場面」(4)「話し合ったことやじっくり考えたことを生徒が述べる場面」のそれぞれの項目では「しばしば設定している(評価4)」「毎回設定している(評価5)」と答えた学校が15%前後であり、十分に時間が取れているとはいえない現状であることが分かった。また、話し合ったことやじっくり考えたことを生徒が記述する場面や表現する場面を設定できない理由(自由記述)としては、「進度に追われ、そのような時間を設定する余裕がない」という理由が多

表6 アンケートの結果（英語）



書きやすかったと感じた生徒が多かったのではないかと考えられる。一方で「自分の意見を日本語から英語に直すことが難しかった」「パートナーの文章に質問をすることが難しかった」という意見も多かった。自分の本当に表現したいことが表現しきれない、相手の感想に対して更に考えたことを表現するなど適切なコミュニケーションがとれなかったと生徒は感じており、改めて段階的・継続的に指導することが必要であることが分かった。

ク 課題

生徒が自分の感想・意見を英語で表現するためには、基本的な語彙・文法・定型表現などを整理してまとめることや、まとまりのある内容の英文を多読するなど、自分の中に蓄積していく活動（＝インプット）が必要である。また、同じようなトピックについて何度も自分の感想・意見を論理的に書いたり話したりする活動や、相手の感想に対して質問することで、相手の意見との違いに気付き、違いを説明し、新たな意見を投げかける活動、つまりコミュニケーション活動（＝アウトプット）も必要で、このインプットとアウトプットの二つを交互に行うことで思考力・判断力・表現力が育成されるようになるのではないかと考える。このようにインプットとアウトプットを繰り返すことが、「思考力・判断力・表現力」「言語力（コミュニケーション力）」を育成する指導法へとつながっていくはずである。今後は表現したいという意欲を更に引き出す授業を、検討していきたい。

IV 研究のまとめ

変化の著しい社会の中で、生徒たちが自ら考え、判断、行動し、未来を切り拓く力を身に付けることが求められている。そこで学習指導においては単に知識を習得させるだけでなく、問題解決の手順や方法が身に付き、自らの目標や課題をもって学習できるように指導をすること、常日頃から生徒が思考・判断・表現する場面を多く設定し、それを継続することが必要となってくる。そのためには年間指導計画やシラバス、単元計画、1時間ごとの授業計画などの学習計画を見直し、思考力・判断力・表現力を育成する時間を増やすような工夫をすること、また適切な指導を行うために生徒の状況を的確に把握し、目標・計画を立てることが必要となる。

今回の研究では、生徒の活動の場面を積極的に導入することが、思考力・判断力・表現力を伸ばすことにつながるという基本認識に立ち、どのような指導法が効果的かを研究した。公民はグループでの話し合いや、共同作業によって、理科は演示実験の結果を予想させることや、実験結果を記述・発表させることによって、保健体育は技能練習やゲームの内容を思考力・判断力を高められる内容にしたり、オリエンテーションを工夫したりすることによって、芸術（音楽）は音素材の特徴を生かした創作活動によって、外国語（英語）は自分の意見や感想を記述し、考えを表現することをペアワークで行うことにより、思考力・判断力・表現力を伸ばすことが可能であることを検証授業により確かめることができた。

今後は更に検証を重ね、より効果的な指導法を研究していきたい。生徒の思考力・判断力・表現力を育成することは生徒の「生きる力」を育成することである。私たちは教育活動全体を通じ、その育成に努めなければならない。

<注>

高校教育課 指導主事 千葉努, 永倉雅子, 宮本由紀乃, 下山達彦

<引用文献>

文部科学省 2009 『高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成21年12月）』, pp. 1-2
文部科学省 2009 『高等学校学習指導要領解説 保健体育編（平成21年12月）』, p. 72

<参考文献>

松本 茂 2009 『授業ディベートのすすめー思考力と表現力の育成』 英語教育 大修館書店
文部科学省 2009 『高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成21年12月）』
文部科学省 2009 『高等学校学習指導要領解説 公民編（平成22年6月）』
文部科学省 2009 『高等学校学習指導要領解説 総則編（平成21年7月）』